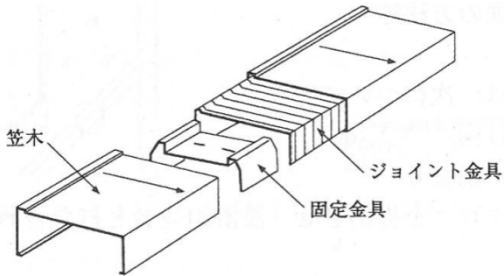


最終更新日 H25.3.1
改修技術 No. 11113201

性能分野	耐久性・耐用性
大分類	劣化部分の補修、外力の緩和
中分類	パラペット部補修
技術の名称	笠木のかぶせ工法
改修技術の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・パラペット天端の躯体ひび割れを補修した上で、金属製笠木をかぶせ、伸縮目地を設置する。合わせて、丸環や手摺の取り付け方法についても見直す。 ・ひび割れの原因が構造耐力に特段の支障を及ぼすものでないことが、専門家の調査により確認され、ひび割れの補修を行った上で、適用することが可能な工法である。 ・手摺の取付方法は、以下のタイプとすることが望ましい。 <ul style="list-style-type: none"> ①笠木と手摺を一体とする形式 ②立ち上がり壁にブラケットで固定する形式 ③立ち上がり壁の内側に置型基礎を設けて手摺を設置する形式 ・笠木の交換に当たっては、防水仕様への変更や材質をグレードアップすることも重要。既存笠木がモルタル製・コンクリート製・スチール製の場合、劣化やひび割れ等により漏水のおそれがあるため、アルミ製品に取替え、耐久性を向上する。
	<p>笠木天端に手摺等がある場合、発錆があれば金物、腐食部を撤去する。またひび割れ部を撤去する。</p> <p>コンクリートのひび割れ部分に樹脂注入工法等で補修する。</p> <p>笠木取り付け用のアンカー穴開けやコンクリートビスの留めつけの際に、新たなひび割れを発生しないように注意する。</p> <p>笠木と笠木のジョイント部は、シーリングなしのものを原則とする。伸縮に対応できるように5～10mmのクリアランスを設ける。</p> <p>手摺にも伸縮目地を入れる。</p> <p>・工事期間 2～7日（事前調査～最終確認）</p>  <p>アルミ製笠木の部材構成例 （出典：建築改修工事監理指針 平成22年版 （財）建築保全センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改修後の性能 防水性・耐久性の回復・向上

共同住宅のタイプごとの技術の適用	技術の種類	<input type="checkbox"/> 調査・診断技術 <input checked="" type="checkbox"/> 改修技術（ <input checked="" type="checkbox"/> 劣化を補修する技術 <input type="checkbox"/> 性能を向上させる技術）	
	共同住宅のタイプごとの適用可能性	S55年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)	使われる可能性が相当ある
		S55年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	使われる可能性が相当ある
		S56～H2年供給(総プロB)	使われる可能性が相当ある
		H3～12年供給(総プロC)	使われる可能性が相当ある
		H13年以降供給(総プロD)	使われる可能性が相当ある
(補足) —			
常にセットで利用される技術	—		
技術が適用される建物の部位	<input checked="" type="checkbox"/> 共用部分 （ <input checked="" type="checkbox"/> 躯体・外壁 <input checked="" type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/> 建具 <input type="checkbox"/> 設備・配管等 <input type="checkbox"/> その他共用部） <input type="checkbox"/> 専有部分 （ <input type="checkbox"/> 設備・配管 <input type="checkbox"/> その他専有部分） { 設置・運営等で建築基準法以外に注意すべき主な法令がある設備 （ <input type="checkbox"/> 注意すべき主な法令（ <input type="checkbox"/> ）） }		
団地で適用した場合のメリット	<input type="checkbox"/> 住棟まわりの土地が利用できること（仮設以外）（ <input type="checkbox"/> ） <input type="checkbox"/> まとまった土地が利用できること（仮設以外）（ <input type="checkbox"/> ） <input checked="" type="checkbox"/> 住宅の数が多く密度が高い（同一仕様の金属製笠木を多数発注できること） <input type="checkbox"/> 特定の設備があること（ <input type="checkbox"/> ）		
足場の設置が必要	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要 （ <input type="checkbox"/> ）		
工事による居住者への影響	数日以上居住できない住戸が発生	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 （ <input type="checkbox"/> ）	
	一時的な影響が発生	<input type="checkbox"/> 断水などライフラインが一時的に利用不可 <input type="checkbox"/> 振動 <input checked="" type="checkbox"/> 騒音 <input type="checkbox"/> 粉塵 <input type="checkbox"/> 臭気 <input type="checkbox"/> その他専有部分又は専用使用部分に対する制限 （ <input type="checkbox"/> ）	
	工事後に続く影響が発生	<input type="checkbox"/> 専有部分又は専用使用部分の使用に対する制限（ <input type="checkbox"/> ） <input type="checkbox"/> 日照・採光等への影響（ <input type="checkbox"/> ）	
当該技術が利用される工事	<input checked="" type="checkbox"/> 計画修繕工事（ <input checked="" type="checkbox"/> 劣化の補修 <input type="checkbox"/> 性能の向上） <input type="checkbox"/> 耐震改修工事（ <input type="checkbox"/> 耐震性の向上 <input type="checkbox"/> 他の性能の向上）		
技術的限界	—		
参考資料	技術情報	・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成22年版」（財）建築保全センター ・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築改修工事監理指針 平成22年版」（財）建築保全センター	
	価格情報	・「マンション Re」（一財）経済調査会	